

小松のモダニズム

二度の大火に見舞われた小松町は、復興に邁進まいしん。昭和十年（一九三五）頃



昭和5年、7年の大火後、復興祭を開催する商店街(小松市立博物館提供)

には近代的な商工都市として再生した。この間、警察署・郡会議事堂など、モダンな建築物が次々建てられた。

こうした都市化と大衆文化の風潮と不況のなか、小松の繁華街はんかがいではカフェが盛んになった。最初は昭和六年に出来た清水町の来々軒とされ、白山町から本折町、清水町にかけて、ことぶき、敷島、いろは、天狗、大阪パレス、鈴蘭など、いくつものカフェが生れては消えた。

映画もモダンな大衆文化を代表する娯楽であった。大正初期には、すでに本折町に第二福助座、若松座が登場。戦前のピークは昭和十年代前半で、日本館（旧蘆城館）と小松館の「二館時代」がつついた。常に大入り満員で、入場者の長い列が出来



ラジウム鉱泉(小松市立博物館提供)

たという。球戯場（ビリヤード）も大正二年（一九一三）には八日市町に開業し、昼夜「紳士の娯楽」として流行した。



小松新興館(小松市立博物館提供)



丸和百貨店(小松市立博物館提供)



競馬場(小松市立博物館提供)

モダンのシンボル「宝塚」。その宝塚温泉の「千人風呂」を真似たラジウム福寿鉱泉も葎島神社の近くにあった。大正三年

九月、地主の酒井芳が温泉を掘り、四年の四月に完成させたもの。福寿鉱泉を囲んで松本楼、堀田養老軒、隅田飯食店など、旅館や料亭が並んだ。昭和十二年(一九三七)六月には、現在の

末広運動公園一帯に、敷地三万坪一周一〇〇〇坪の競馬コースが造られた。ファンや見物客で賑わい、草競馬ながら戦後二十四年まで続いた。その後二十七年より総合運動公園として造成され今日に至る。(本康宏史)